

6月の窓

6月は衣替えの月で、夏服がさわやかさを運んでくれます。一方、梅雨の季節ともなり、じめじめしたうっとうしい天気が多くなります。五月雨とは、陰暦の5月頃に降る長雨のことなので、梅雨期に降る雨のことになります。詩人の大岡信氏によると、梅の実が黄熟する頃に降るところから「梅雨」とも、また、降るような降らないようなはっきりしない天候が物を^{かび}黴させてしまうので「黴雨」とも書かれるそうです。芭蕉も「五月雨」を詠んだ句をいくつか残しています。

五月雨の 降り残してや 光堂……………芭蕉

平泉の中尊寺・金色堂で詠んだ句として有名です。「中尊寺の大部分は長年の風雨で損壊しているのに、ここだけは五月雨も遠慮して降り残したのだろうか」と、光堂が燦然と輝いている様子が伝わってきます。

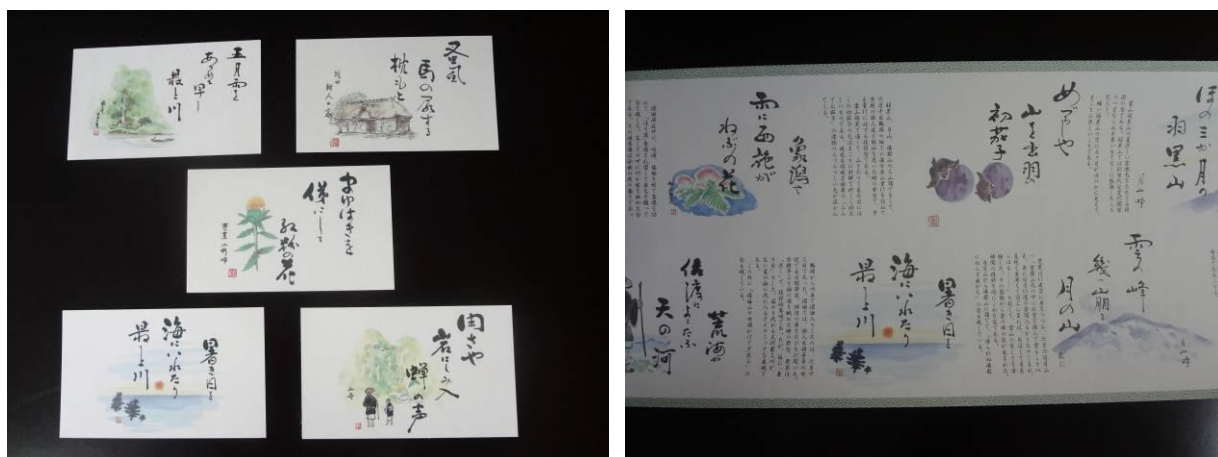
五月雨を 集めて早し 最上川……………芭蕉

大石田から最上川を舟で下った時の句です。もともと急流の最上川が五月雨を集めて増水し、すごい勢いで流れ下っているのを詠んだものです。芭蕉は、大石田の大庄屋で開かれた句会で「五月雨を集めて涼し最上川」として、川面を渡る涼しい風が俳席に流れてくるように詠みましたが、「奥の細道」では、「涼し」を「早し」に変えて収めました。

芭蕉が中尊寺を訪れたのが旧暦5月中旬（太陽暦では6月下旬）、大石田に滞在したのが5月下旬（太陽暦では7月中旬）とされていますので、まさに五月雨を詠んだ句となります。

先日、以前から知り合いの印刷会社の社長さんから、6枚の名刺をいただきました。表は全部同じですが、裏には芭蕉の有名な俳句とそれに関する絵が描かれているのです。この社長さんは、今は使われなくなったガリ版で印刷されたものを収集して会社内に「山形ガリ版印刷資料館」というものを作ったことから、テレビでも放送されましたが、私はまだ見学したことがありませんでした。たまたま別の用事で学校に来られた時に、名刺をいただいたのでした。20年近く前に、元山形大学教授の長野亘先生が描いた「奥の細道を辿る」という絵巻をこの社長の会社で出版しており、この絵巻では、芭蕉が各地で詠んだ有名な俳句30点を、長野先生が書と絵で紹介しながら解説を加えています。長野先生がご存命の時に「この絵と書は自由に使ってよい」との許可を得ていたので、名刺の裏に6種類の絵と書を印刷したとのことでした。最初の写真は、山形に関連のある5つの句と絵の描かれ

た名刺で、次の写真は、絵巻の一部です。名刺だけでなく、絵巻もいただきました。



6月は、運動部に所属する3年生にとって最も重要な大会「山形県高等学校総合体育大会」が開催される月でもあります。5月に行われた「村山地区高等学校総合体育大会」では、山岳部（登山競技）男子が最優秀、卓球部女子団体が2位、弓道部女子団体が2位などの成績を収め、個人種目でも各競技において練習の成果を発揮して、すべての部が今度の県大会に出場することになりました。6月7日（金）からの大会となりますが、陸上競技は5月下旬にすでに県大会が終了し、5名の選手が6種目で東北大会に出場することになりました。他の種目より1週間早く始まったサッカー競技は、1回戦で米沢工業高校と対戦し、最後まで攻撃的なサッカーをしてきましたが、惜しくも敗れてしまいました。7日からの県高校総体の主会場は飽海地区となりますが、競技により県内各地での開催となりますので、詳細はこのホームページにある「山東通信」の5月27日号をごらんください。

文化部の生徒にとっても、文化部のインターハイとも言われる「全国高等学校総合文化祭」の県予選が開催されました。山形県高校将棋選手権大会が5月25日、上山明新館高校で開催され、女子が団体初優勝となり、長崎で開催される全国高等学校総合文化祭への出場権を獲得しましたが、男子は惜しくも敗れ、団体12連覇はなりませんでした。全国高等学校総合文化祭囲碁大会の山形県予選会は5月26日に本校で開催され、男子2名女子1名で構成される県の選抜チームに本校の生徒が1名選ばれ、全国高総文祭に出場することになりました。

本校は県立山形工業高校と隣同士になっていますが、本校の東側には、山形工業高校との共用プールがあります。50メートル9コースの立派なもので、県立高校としてはありがたい設備です。両校の水泳部の他に、体育の授業でも使っています。先日、両校の職員によるプールの水入れ式がありました。最初の写真は、水を入れ

る前のもの、次の写真は水が一杯になった後のものです。一杯になるのに2～3日かかるそうです。水入れ式の後、私は出張で3日ほど学校をあけていまして、戻った時には写真のようなきれいな水が張り詰めていました。



最後に、今月は校内にある芸術作品を紹介します。

本校内には、いろいろな芸術作品があります。私が以前勤務していた頃からあったものもあれば、その後に寄贈されたものもあるようです。私が以前勤務していた時にお世話になった美術の工藤道汪先生の絵も3点あります。工藤先生は、私が担任をしていた時の学年主任の先生でもあり、退職後もお世話になっている方でもあります。画家として精力的に活動するとともに、県美術連盟や県総合美術展覧会の運営にも尽力されたことから、齋藤茂吉文化賞も受賞されました。



最初の絵が「雪どけの最上川」で、会議室に飾ってあります。先生は村山市の出身で、最上川を描いた絵がたくさんあります。次の絵は「風の港」という題で、玄関を入ったところに飾ってあります。先生は、最初庄内の中学校に勤務されたことから、港を描いた絵もたくさんあります。もう1点は「蔵王」という作品で、講堂に飾ってあるかなり大きな作品です。私が以前勤務したことのある左沢高校にも、朝日連峰を描いた雄大な絵がありました。

先生は、毎年のように個展を開かれており、4月上旬山形市内のギャラリーで開催された油絵展にも行ってまいりました。ちょうど先生もいらっしゃって、私が本校に異動なったことも知っておられました。毎日工藤先生の絵を見て仕事をできることを、ありがたく思っております。